

人との出逢いで人生が変わる

1. 同友会での気づき

右掲は、先週(10月12日)、大阪府中小企業家同友会(同友会)で所属している阿倍野住吉支部の例会報告をした時の配布資料です。実は、2000年に、一度、入会しているのですが、慌ただしい時だったので僅か半年で退会しており、2012年3月に再入会して今日に至っております。こんな事情もあって、例会報告は初めてだったのです。

私は、67才になっているので事業承継の話で締めくくろうと考えていたのですが、リハーサルで支部長の房本さんから「栩野さん、まだまだ若く見える。事業を譲る心算などないやろ!？」という突っ込みを頂いてハッと気づいたのです。自分から仕事を取り除いたら何が残るかと考えたら、妻が2年前に先立っているのと一緒に旅行に行くとか何かをする等の月並みな事柄がないのです。確かに、唯一の趣味であるゴルフはメンバーでもあるので、行こうと思えば行けないでもないのですが、これも一緒に行ってくれる友達があつての事だと気づいたのです。そこで、「生涯現役」(人の役に立ってこそ我が人生)というタイトルに変更して、「ワクワク、イキイキ」をサブ・テーマにして結ぶ事にしましたのです。

当然、何事も「起承転結」の展開が重要で、「誕生～大学～就職」、「サラリーマン時代」、「独立起業～今日」、「明るい未来図」という4部の構成にした訳です。この67年間のドラマを口頭だけで話すのは困難なので、配布資料にエッセンスを記載したのです。実は、支部の方針でパワーポイント使用が禁止、口頭で話す事になっていたのです。パワーポイントを使って話すなら慣れていたので困らないのですが、それが出来ないで資料に各フェーズのエッセンスを書き込んだ形にしたのです。

しかし、このボリュームになったので、持ち時間50分というのも難しくなり、自分一人で報告の練習をして話すシナリオを組立てたのです。十分な練習をした心算ですが、いざ話す段になるといろんな思いが交錯して、うまく話せなかった面がありました。



2. 人との出逢いで人生が変わる

右掲は孔子の教えにあるものですが、私の志学は浪人時代に予備校に通う環状線の社内で、偶然、向かいの席に「FORTRAN」と書かれた本を読む大学生の方がいて、そのタイトルにオヤっと思ったのが大きな出逢いだったのです。少年の頃から漫画本などの未来図にあるコンピュータや空飛ぶ自動車・高層建築物に憧れていたのですが、そのコンピュータの言語だったのです。それから、NHKのコンピュータ講座で電電公社のDRESSというシステムを使ったFORTRAN講座を見るようになったのです。当時は、タイプライターみたいな装置を入出力装置にしており、電話回線を使って電電公社にあるコンピュータと接続して運用していました。

その後、大学に進み就職という時期に、この出逢いが物を言ったのです。私は、幼少の頃から身体が弱く、学校も休みがちだったのですが、大学2年の夏に急性腎炎を患い完治できずに3年の冬に就職活動が始まったのです。1月は三菱重工、2月は椿本チェーンを受験したのです

孔子の教え
志学・15才
而立・30才
不惑・40才
知命・50才
耳順・60才
從心・70才

が、いずれもペーパーテストは受かるが面接やその後の検査で落ちるという状況だったので、逆転の発想して地元企業に切り替えたのです。たまたま、トヨタオート大阪に飛び込んで「コンピュータをやりたい」と売り込んだのです。3度目の訪問時に故福井社長の面談があり、いろんなエピソードがあって採用して頂いたのです。故福井社長がトヨタや社内の反対を「ポケットマネーで買ってやる」と押し切って「システムの道」を切り拓いて下さったのです。

3. 故船井先生との出逢い

その後、トヨタオート大阪でシステムを担当して全社オンラインシステムの構築、さらに、電子交換機と接続してテレマーケティングの構築や部品共販との異機種接続を行い、当時の自動車販売店でのシステム開発の殆どが完了したのです。平成元年に経営企画室室長を拝命して、トヨタ方式の物流改善プロジェクトのモデル店になり、営業所の改善活動を行ったのです。

しかし、営業部門の改善で一度はOKが出たものが中止になり、やるべき事を見失う状況になったのです。その後、業務課長を命ずという辞令をキッカケに「社長はクルマの道、私はシステムの道を歩みたい」という主旨で辞表を出し、関連会社のIBM特約店をしている会社に再就職したのです。ここでトヨタ方式をお客様に広める心算でいたのですが、「トヨタは雲の上」というお客様の反応があり上手く展開できずにいたのです。

平成6年に船井総研が客員経営コンサルタントを育成する学校を開いたのです。これに自費で通い資格を得て、翌年に「船井流」という看板を上げて起業したのです。この船井先生との出逢いが大きかったのです。船井流のお蔭様で経営コンサルタントの道を切り拓く事が出来て、約22年間、何とか経営を続けて来られたのです。

4. 生涯現役の道を切り拓く

4年前に中小企業家同友会に再入会したのですが、先週12日に初めて例会報告を行ったのです。この報告の為に2回リハーサルをして頂いたのですが、ここで3度目の出逢いがあったのです。「不惑」の時に独立起業して今や67才になり「耳順」から「従心」へ向かう年頃なので、例会報告を事業承継とする心算でいたのですが、房本支部長から「栩野さん、若く見える。まだまだ、事業を譲る心算はないやろ！？」という突っ込みを頂いて、ハッと気づいたのです。

思えば、近所に90才でも内科医をしている方もいらっしゃるし、100才を超える方が6万人を突破して、毎年100才予備軍が約3万人もいる高齢化社会なのです。そこで、「生涯現役」とタイトルを切り替えて、サブに「人の役に立ってこそ我が人生」として「年をとってもワクワク、イキイキや！」という主旨で報告内容を組み立てたのです。

重要なポイントは、幾つになっても「目標」を持って生きる事なのです。孔子が教える「耳順」や「従心」を総合すると「年をとってからは若い人の言う事、すなわち、若い人のやりたいという事の実現に支援する」という風になるのです。お蔭様で年金も頂いているので収入的には余裕があるので、故福井社長がトヨタや社内の反対を「ポケットマネーで買ってやる」で押し切って、私のシステムの道を切り拓いて下さったように私もポケットマネーで若い人を支援して恩返ししたいと思っています。

22才で故福井社長と出逢い「システムの道」を切り拓き、45才で故船井先生に出逢い「経営コンサルタントの道」を切り拓き、今回、67才で房本支部長の「まだまだ若い」という一声で、「生涯現役」という未知の世界を切り拓いて頂いたのです。お客様や社員・パートナーたちと「願望」を抱きワクワクしながら、「健康」に留意してイキイキと生きて行きたいと願っています。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryu.html> あります！】